

回転運動をしているときの相対運動Ⅰ

空間に固定されている座標系（慣性系）を O - xyz 、角速度 ω で回転している座標系（例えば自転する地球やメリーゴーラウンド）を O' - $x'y'z'$ とする。それぞれの軸の基本ベクトルはそれぞれ i, j, k, i', j', k' とする。 O' 系の基本ベクトル i', j', k' の時間変化率は（注1 参照）

$$\frac{di'}{dt} = \omega \times i', \quad \frac{dj'}{dt} = \omega \times j', \quad \frac{dk'}{dt} = \omega \times k'$$

なので、点 P の位置ベクトル r （地表の大気的位置ベクトルやメリーゴーラウンドの上を歩く子供の位置ベクトル）、

$$r = xi + yj + zk = x'i' + y'j' + z'k'$$

の時間変化率（質点 P の慣性系での速度）は

$$v = \frac{dr}{dt} = \left\{ \left(\frac{dx'}{dt} i' + \frac{dy'}{dt} j' + \frac{dz'}{dt} k' \right) + \left(x' \frac{di'}{dt} + y' \frac{dj'}{dt} + z' \frac{dk'}{dt} \right) \right\} \\ = \left\{ \left(v_x' i' + v_y' j' + v_z' k' \right) + \omega \times (x' i' + y' j' + z' k') \right\} = v' + \omega \times r$$

ここで、 $\omega \times r$ は座標の回転運動に起因する速度、 v' は回転座標系で見た点 P の相対速度。

これを使って慣性系 O - xyz から見た加速度 a は、速度 v を微分して

$$a = \frac{dv}{dt} = \frac{dv'}{dt} + \frac{d(\omega \times r)}{dt}$$

v' に $v_x' i' + v_y' j' + v_z' k'$ を代入して、 $\frac{dv_x'}{dt} i' + \frac{dv_y'}{dt} j' + \frac{dv_z'}{dt} k'$ を a' （回転座標系 O' - $x'y'z'$ の上で見た点 P の相対加速度）と置くと

$$a = a' + \omega \times v' + \frac{d\omega}{dt} \times r + \omega \times \frac{dr}{dt} = a' + \omega \times v' + \frac{d\omega}{dt} \times r + \omega \times (v' + \omega \times r) \\ = a' + \frac{d\omega}{dt} \times r + 2\omega \times v' + \omega \times (\omega \times r)$$

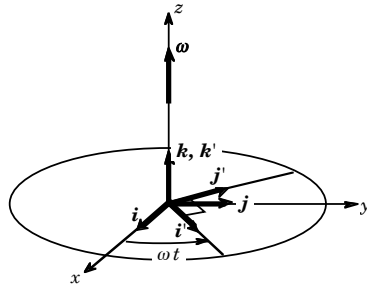
従って、相対加速度 a' は

$$a' = a - \frac{d\omega}{dt} \times r - 2\omega \times v' - \omega \times (\omega \times r)$$

相対加速度に質量 m をかけて、 $ma' = F$ を代入して、相対運動の運動方程式

$$ma' = F - 2m\omega \times v' - m\omega \times (\omega \times r) - m \frac{d\omega}{dt} \times r$$

慣性力（見掛けの力）：コリオリ力 遠心力 回転速度の変化
が得られる。



回転運動をしているときの相対運動Ⅱ

慣性系に固定されている座標系を O - xyz とする。ベクトル r は、角速度 ω で回転する座標系 O' - $x'y'z'$ の上に乗っている。微小時間 dt の間に、 r ベクトルは角度 ωdt だけ回転するので、PQの長さは $(\omega \times r)dt$ となる。

さて、 O - xyz 座標から点Pを観測すると、ベクトル r は dr だけ変化するが、 ω で回転する座標系で見た場合には、 $(dr)'$ だけ変化した様に見える。実際の変化は $PQ + (dr)'$ なので

$$dr = (dr)' + PQ = (dr)' + (\omega \times r) dt \quad (1) \quad (PQ = (\omega \times r) dt \text{ については注1 参照})$$

と書ける。これを時間で微分すると速度 v が得られる。

$$v = \frac{dr}{dt} = \left(\frac{dr}{dt} \right)' + \omega \times r = v' + \omega \times r \quad (2)$$

(v : 慣性系で見た速度、 v' : ω で回転する座標系で見た相対速度、 $\omega \times r$: ω で回転する座標軸による速度) 従って、回転する座標に乗って観測した相対速度 v' は

$$v' = v - \omega \times r$$

(真の速度 v から、座標軸の回転による速度 $\omega \times r$ を差し引いたもの) となる。

加速度 も (1) 式と同様に、 dv は

$$dv = (dv)' + (\omega \times v) dt \quad (3)$$

となるので、

$$a = \frac{dv}{dt} = \left(\frac{dv}{dt} \right)' + \omega \times v \quad (4)$$

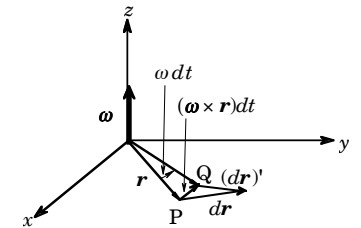
が得られる。(4) 式の v に (2) 式を代入し、

$$a = \left(\frac{dv'}{dt} \right)' + \left(\frac{d(\omega \times r)}{dt} \right)' + \omega \times (v' + \omega \times r) = \left(\frac{dv'}{dt} \right)' + \omega \times \left(\frac{dr}{dt} \right)' + \frac{d\omega}{dt} \times r + \omega \times v' + \omega \times (\omega \times r) \\ = a' + 2\omega \times v' + \omega \times (\omega \times r) + \frac{d\omega}{dt} \times r$$

となる。ここで相対加速度を、 $a' = \left(\frac{dv'}{dt} \right)'$ とおいた。加速度 a に質量 m をかけ、 $F = ma$ を代入すると、相対運動の運動方程式として

$$ma' = m \left(\frac{dv'}{dt} \right)' = F - 2m\omega \times v' - m\omega \times (\omega \times r) - m \frac{d\omega}{dt} \times r$$

慣性力(見掛けの力) : コリオリ力 遠心力 回転速度の変化
が得られる。



注 1

一般的に回転軸 (ω に平行) に角度 ϕ をなすベクトル $\mathbf{r}$ を考える. このベクトルが、角速度 ω で回転する座標に固定されている時に、 dt の時間に变化する量は、回転角 ωdt に回転半径 $r \sin \phi$ をかけて得られる.

$$|d\mathbf{r}| = \omega dt \, r \sin \phi = (\omega r \sin \phi) dt$$

$\omega r \sin \phi$ は $|\omega \times \mathbf{r}|$ の定義に等しいので

$$d\mathbf{r} = (\omega \times \mathbf{r}) dt$$

$$d\mathbf{r}/dt = \omega \times \mathbf{r}$$

と与えられる. ここで、 $\mathbf{r}$ を i, j, k に置き換えればよい.

